

中西 弘樹¹:長崎県におけるクリイロカメガイ(カメガイ科)のこれまでにない大量漂着
 Hiroki NAKANISHI¹: Unusual mass stranding of *Cavolinia uncinata* (Cavoliniidae) in Nagasaki Prefecture, western Kyushu, Japan

クリイロカメガイは軟体動物門・腹足綱・有殻翼足目・カメガイ科 (Cavoliniidae) に属し、世界の温・熱帯海域に生息し、浮遊生活をしている(奥谷・渡部 1979; 奥谷 2000)。しばしば大量発生することがあり、その漂着が観察されてきた(Ueno and Amino 1994; 中西ほか 2008)。その時期は、これまでは九州西北部から山口県では、6月上旬から9月の間に知られていた(Ueno and Amino 1994; 中西ほか 2008)。2010年は5月下旬から6月初旬にかけて長崎県本土側各地にこれまでにないクリイロカメガイの大量漂着を確認したので記録しておくと共に、これまでの観察結果からその漂着時期について考察したので報告しておく。

漂着状況

2010年5月下旬に長崎市伊王島から香焼島周辺にクリイロカメガイが多量に浮遊しているのを長崎市水産振興課の植田篤氏が確認した。その後、市内のいくつかの漁業組合からクリイロカメガイと思われる浮遊生物についての情報と問い合わせが水産振興課に寄せられた。

筆者は6月1日に同市三和町(旧西彼杵郡三和町)鯨浜で(Fig. 1のSa地点)、生体が腐敗し悪臭する状態で、これまでに見たこともない大量の漂着を観察した。鯨浜は五島灘に北西向きに面した距離約300mの砂浜海岸で、浜の部分は幅広く、背後は森林に被われた崖となっている。この浜は漂着物がかかり多く、ココヤシの果実の漂着やゲンバイヒルガオの漂着発芽が毎年観察されている。クリイロカメガイの漂着した部分は、幅は広い所で7~8m、狭いところで約1mで、汀線にほぼ平行に距離約300mに渡っていた(Figs. 2, 3)。厚く漂着している部分では厚さ15cm以上にもなり、クリイロカメガイだけをバケツで何倍も簡単にすくうことができるほど大量であった。全体の量は恐らく数~10m³にもなり、これまでにない大量漂着である。貝殻は、死後の時間があまりたっていないためか、これまでに観察したよりも赤茶色で光沢があった。

同じく6月上旬に佐世保市小佐々町楠泊地区一帯にも漂着が確認され、その後7月に長崎市見崎町熊の浦や同市外海町小浜の浜、西海市大島町北部海岸(Fig. 1)

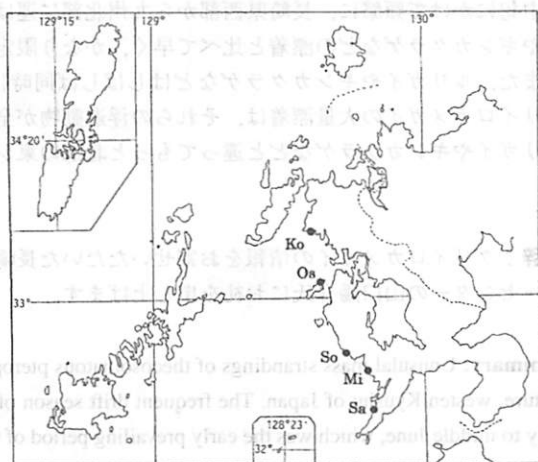


Fig. 1. Map showing the localities investigated in Nagasaki Prefecture. Ko: 小佐々町楠泊, Os: 西海市大島北部海岸, So: 長崎市外海町小浜の浜, Mi: 長崎市見崎町熊の浦, Sa: 長崎市三和町鯨浜



Fig. 2. Mass stranding of *Cavolinia uncinata* in Kujirahama, Nagasaki Prefecture.

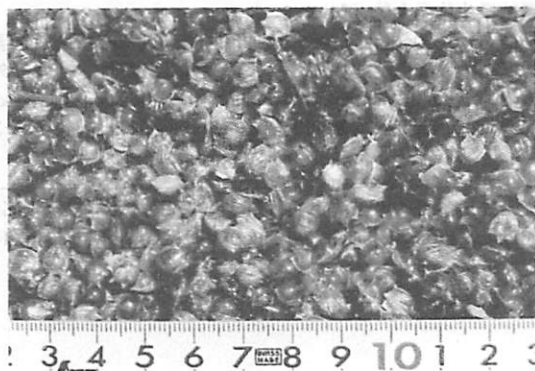


Fig. 3. Drifted shells of *Cavolinia uncinata*.

などにも多量に漂着していた。しかし、貝殻の色が少し脱色し、1ヶ月以上経過した状態であった。

考察

漂着していたクリイロカメガイは、貝殻が新鮮であり、本体が腐敗している状態から判断して、漂着して1週間以内の状態であると考えられる。鯨浜は北西向きの海岸であり、2010年5月の長崎県気象月報 (http://www.jma-net.go.jp/Nagasaki/gyomu/tokei/t_1005.pdf) によると、長崎市では5月26日から31日まで最大風速4.5~7.8 m/sのほぼ北向きの風が吹いていた、それよりもさらに1週間前までは南西の風であった。したがって、大量漂着したのは、5月26日ごろと考えられる。ちょうどその頃に、この場所のすぐ近くである長崎市伊王島から香焼島周辺海域で、多量に浮遊しているのが観察されている。さらにそれよりも北にある長崎県北部や西海市、佐世保市でも漂着が確認されており、その時期は6月上旬ごろであったと考えられる。

以上の観察結果から、今回のクリイロカメガイの漂着は、これまで知られている漂流・漂着量よりも異常に大量で、海表面の広い範囲にわたって漂流していたものと言える。また、通常は、長崎県本土側よりも五島、平戸、対馬から九州北部への漂着が多いが、より本土側に運ばれてきたのは、対馬暖流の流れが例年とは少し違っていたものと考えられる。筆者は、2009年6月13日に平戸市岩の上町の海岸でも大量漂着を確認しているが、クリイロカメガイの貝殻の色などから漂着して2週間以上たっているものと思われた。これらの結果やこれまでの観察(中西ほか 2008)から、クリイロカメガイは対馬暖流の勢力が強くなり始める5月下旬から6月中旬にかけて頻繁に、長崎県西部から九州北部に運ばれてくることが明らかにされた。この時期は、ルリガイやギンカクラゲなどの漂着と比べて早く、かなり限定されていると言える。

また、ルリガイやギンカクラゲなどはしばしば同時に漂着が見られるが(松本 2001; 中西・由比 2007)、クリイロカメガイの大量漂着は、それらの浮遊動物が全く含まれておらず、単独で漂着している。このことは、ルリガイやギンカクラゲなどと違ってもっと北部の東シナ海南部あたりの海域で発生しているものと推定される。

謝辞：クリイロカメガイの情報をお寄せいただいた長崎市水産振興課の植田篤氏、長崎県佐世保市西海パルシーセンターの山口陽介氏にお礼を申し上げます。

Summary: Unusual mass strandings of thecosomatous pteropod *Cavalinia uncinata* (Rang) were found in Nagasaki Prefecture, western Kyushu of Japan. The frequent drift season of this species in western and northern Kyushu was from late May to middle June, which was the early prevailing period of the Tsushima Current.

引用文献

- 松本一夫 2001. 三方町食見海岸に打ち上げられたルリガイ。Ciconia (福井県自然保護センター研究報告) 9: 43-44.
中西弘樹・由比良雄 2007. 長崎県野母崎町に大量漂着したルリガイとその個体群構造。漂着物学会誌 5: 12-26.
中西弘樹・山口陽介・由比良雄・大岩保雄 2008. 2007年長崎県におけるクリイロカメガイ(カメガイ科)の大量漂着。長崎県生物学会誌 (64): 1-3.
奥谷喬司 2000. 日本近海海産貝類図鑑. 1173pp. 東海大学出版会, 東京.
奥谷喬司・渡部忠重 1979. 貝Ⅱ(二枚貝, 陸貝, イカ, タコほか). 294pp., 学習研究社, 東京.
Ueno S. and Amio M. 1994. Swarming of thecosomatous pteropod *Cavalinia uncinata* in the coastal waters of the Tsushima Strait, the western Japan Sea. Bull. Plankton Society of Japan 41: 21-29.

(Received Sept. 4, 2010; accepted Sept. 20, 2010)

¹ 〒852-8521 長崎県長崎市文教町1-14 長崎大学教育学部生物学教室

¹ Biological Institute, Faculty of Education, Nagasaki University, 1-14, Bunkyo-machi, Nagasaki 852-8521